

事業評価調書

◎基本情報

年度	令和4年	会計コード	10	一般	事業コード	23531	
事業名	福祉のまち推進費						
評価担当課	所属名	保)総務部 地域福祉・生活支援					
	課長名	高橋俊範	担当者名	高橋苑子・横山雅一	電話番号	011-211-2932	
施策名	主	地縁による団体(町内会・自治会)、福祉のまち推進センター、N					
	副						
アクションプラン	● 対象	○ 対象外	戦略ビジョン	● 対象	○ 対象外		
事業の性質	○ 経常経費	● 臨時的経費					
	○ 内部管理	○ 法定経費	○ 指定管理				
事業内容	実施形態	○ 直営	○ 一部委託	○ 全部委託	● 補助助成	○ その他	
	目的	短期	地域福祉活動への参加に意欲的な市民を、見守り活動等の地域福祉活動に結び付ける。また、地域内で活動の中核となる人材を養成し、地域福祉活動の底上げ及び更なる推進を目指す。				
		長期	地域における支え合い活動を活性化することにより、誰もが安心して暮らすことのできる地域福祉社会をつくる。				
	取組内容	①区福祉のまち推進センター及び地区福祉のまち推進センターへの補助金交付 ②札幌市社会福祉協議会に地域福祉推進支援業務を委託					
実施結果	地区福祉のまち推進センター(89箇所)では、地域住民が主体となって、見守り活動を中心とした支え合い活動を展開し、区社会福祉協議会は、各センターにおける活動を支援した。 また、令和元年度より地域福祉活動を行う者への相談、助言、支援を担う「福まち活動調整員」を養成しており、令和4年度は60名が活動調整員として修了した。(累計268名)						
事業実施における工夫点	地区福祉のまち推進センターに対する活動費助成は、地区の世帯数や高齢化率に基づく「基本活動費」と地区の活動状況に基づく「事業加算費」の2階建て方式としている。						
対象者	地域福祉活動実践者、及び地域の中で支援を必要とする人々			開始	平成7年度	終了	0年度
関連法令・条例・要綱等	札幌市福祉のまち推進事業補助金交付要綱						
他都市の状況	横浜市や名古屋市などの他政令市においても、地域住民による福祉活動の活性化や地域福祉活動の交流拠点の整備を図る事業を行っている。						

◎事業費

(単位:千円)

	令和3年度決算	令和4年度予算	令和4年度決算	令和5年度予算	
事業費	66,154	79,000	71,002	78,000	
うち特定財源	56,305	79,000	71,002	78,000	
人工	0.8	0.7	0.7	0.0	
人件費	5,760	5,040	5,040	0	
計(事業費+人件費)	71,914	84,040	76,042	78,000	
事業費の内訳	令和4年度決算	・補助金: 68, 148千円(区福まち: 21, 567千円、地区福まち: 46, 581千円) ・地域福祉推進支援業務: 2, 854千円			
	令和5年度予算	・補助金: 74, 939千円(区福まち: 22, 000千円、地区福まち: 52, 939千円) ・地域福祉推進支援業務: 3, 061千円			

◎検証(振り返り)

活動指標1	指標名	福まち活動調整員配置地区数(累計)(AP2019指標)			
	令和3年度実績	令和4年度予定	令和4年度実績	令和5年度予定	
	66地区設置	89地区設置	70地区設置	—	
活動指標2	指標名				
	令和3年度実績	令和4年度予定	令和4年度実績	令和5年度予定	
成果指標1	指標名	「訪問・電話等安否確認」実施地区数			
	令和3年度実績	令和4年度目標	令和4年度実績	令和5年度目標	
	89地区	89地区	87地区	89地区	
成果指標2	指標名	福祉推進委員会を設置している単位町内会数			
	令和3年度実績	令和4年度目標	令和4年度実績	令和5年度目標	
	1263単位町内会	1468単位町内会	1248単位町内会	1500単位町内会	
項目	判定	理由			
事業の成果 (目的をどの程度達成できたか)	A	福祉のまち推進センターの中心的な活動である「訪問・電話等安否確認」は、概ね市内全域で実施されている。			
事業規模 (事業ボリュームは適切か)	A	地域住民が主体的に課題を発見し、解決を図ることができるよう、地区福祉のまち推進センターを概ねまちづくりセンターごとに設置しており、適切な規模であると判断している。			
事業の実施手法 (事業の効率性、実施主体は適切か)	A	当事業は、社会福祉法に基づいて地域福祉の推進に資する事業を行う区社会福祉協議会を実施主体としており、適切であると判断している。			
対象者の満足度 (対象者のニーズに答えているか)	A	新型コロナウイルスの影響により各種活動に制限がかかっていた際にも、対面以外の方法を活用しており、対象者のニーズに答えているものと判断している。			
市民参加の実施	<input type="checkbox"/> 企画 <input checked="" type="checkbox"/> 実施 <input type="checkbox"/> 評価 <input type="checkbox"/> 対象外 市民参加結果への対応 <input type="checkbox"/> 回答 <input type="checkbox"/> 反映				
今後の改善点	複雑・多様化する地域福祉課題に対応することができるよう、地区福祉のまち推進センターにおける調整機能を高めるとともに、担い手の裾野拡大に取り組んでいく必要がある。また、地域ごとに福祉活動の取組状況に偏りがあることから、活動の中核を担う人材の確保が必要である。				
前回の評価	● A ○ B ○ C ○ 評価省略対象事業・前年度実施なし				
今年度取り組んだ見直し内容	なし		見直し効果額 (前年度)	0 千円	
今回の評価	● A ○ B ○ C ○ 評価省略対象事業・前年度実施なし				
評価の理由	昨年度に比べ、新型コロナウイルスの影響は軽減したものの、依然として対面により行われていた各種活動への制限が継続しており、事業全体としての活動の機会はそれほど増加していないが、対面に代わる方法や、感染対策を踏まえた取組など、地域ごとで工夫して活動を行っていた。				
次年度の取組の方向性・改善内容	事業内容	<input type="checkbox"/> 改善 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 小地域における見守り活動がより多くの地域で実践されるよう普及啓発を図っていくとともに地域福祉活動の中核を担う「福まち活動調整員」の養成を進める。			
	予算	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> その他 令和6年度は、令和5年度と同様の事業展開とするため、予算規模は同程度を見込んでいる。		見直し効果額	0 千円